

学齢	小1～小4	教材	ぬりえ
学習者	習熟度が異なる学習者の混合クラスでの指導を工夫した例		
備考	2～3名 漢字圏・非漢字圏		

学習目標
ぬりえの教材を使い色、語彙、文の認識活動をする 導入レベルの学習者:色の名前がわかる 初期レベル 色+名詞 中レベル 短文 中上級レベル 作文

活動案
<p>Tが指示を出した通りに、Sが色をつける 指示は子どものレベルに合わせて調整する 導入期 指で指して「青」 初期レベル「黒い耳」「青い車」 中レベル、「ミッキーの耳は黒いです」 中上級レベル「右の男の子は黒いジャケットを着ています」</p> <p>色を塗る前に何度か復唱させる。 色を塗っている間、聞いた言葉、復唱したことばがしみこむ時間になるので色を塗る時間をとる。 →分からなくて隣に座っている子の真似をする子どももいるがそれでも聞いた言葉と意味の関連性が浸透していくのでそれでも良い。</p> <p>残りは好きな色を塗らせ、絵を見せて説明してもらおう活動につなげる。</p>

教材:ぬりえ

色鉛筆、クレヨンなど子どもの筆圧に合わせたもの

ぬりえ教材がダウンロードできるサイト(2012年3月現在)

<http://coloringbookfun.com/>(英語)

<http://nurie.ciao.jp/>(日本語)

<http://kids-nurie.com/>(日本語)